

訂正

本誌 2019 年 7 月号「NOTE」において、投稿記事「自然数の複雑度」(50~51 ページ)について解説しましたが、いくつかの間違い・確認不足がありましたのでここで修正と補足をさせていただきます。

まず「自然数の複雑度」ですが、これは K. Mahler と J. Popken によって 1953 年に定義されたものであることがわかりました。R. Guy も彼の有名な著書である *Unsolved Problems in Number Theory* の F26 において、自然数の複雑度に関するある予想を述べています。また、「オンライン整数列大辞典」では A005245 という番号で登録されているようです。評者は解説において $7 = 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1$ なので $\omega(7) = 7$ としてしまいましたが、 $7 = (1 + 1)(1 + 1 + 1) + 1$ と書けるので、正しくは $\omega(7) = 6$ となります(ここを間違えていたので、オンライン整数列大辞典で正しく検索ができていませんでした)。また、周さんの結果は補題を含めて J. Selfridge によって証明されていたこともわかりました。J. Selfridge は補題を用いてもう少し一般に $\omega(2^l 3^k) = 2l + 3k$ ($l = 0, 1, 2$) であることを示しています。 $l = 0$ のときが周さんの結果です。

確認不足のため、投稿者の周さんはもちろんのこと読者の皆さんにもご迷惑をおかけしました。ここにお詫び申し上げます。 [ZZZ]